

昭和館特別企画展

# 昭和を

## 生き抜いた

## 女性たち

（おおくま 大妻コタカと おおはし 大橋鎮子らが生きた時代）



ワンピース  
昭和25年(1950)から26年頃



平成29年

# 7.22(土) ~ 9.10(日)

会場	昭和館3階 特別企画展会場
開館時間	10:00 ▶ 17:30 (入館は17:00まで)
休館日	毎週月曜日 (8月14日は開館)
後援	千代田区・千代田区教育委員会



URL <http://www.showakan.go.jp>

<https://twitter.com/showakankudan>

<https://www.facebook.com/showakankudan/>

〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1 TEL 03-3222-2577 FAX 03-3222-2575

●7・6階には常設展示室(高校生以上有料)があります。●団体予約承ります。

電車ご利用の場合

地下鉄 九段下駅から徒歩1分(東西線・半蔵門線・都営新宿線出口4) JR 飯田橋駅から徒歩約10分  
車をご利用の場合

首都高速西神田ランプから約1分(九段下交差点) 有料駐車場有(30分200円・普通乗用車のみ)



入 場 無 料

# 昭和を

## 生き抜いた

## 女性たち

〜おおつま 大妻コタカとおおはしげこ 大橋鎮子らが生きた時代〜

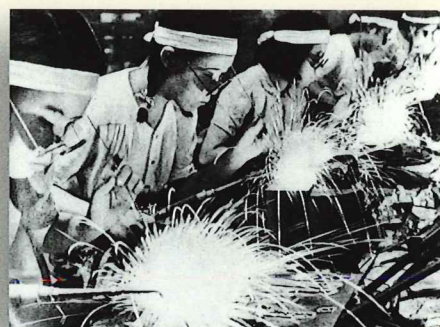
ごあいさつ

このたび昭和館では、「昭和を生き抜いた女性たち」大妻コタカと大橋鎮子らが生きた時代」と題して、特別企画展を開催することとなりました。

戦争は女性のくらしに大きな変化をもたらしました。出征していく男性に代わり、戦時下での女性は様々な役割を求められるようになりました。

終戦をむかえると、苦しい耐久生活のなか新しい制度のもとで女性の権利、進学率の向上など、戦後復興を支える女性の活躍も目立つようになります。

昭和のなかで、女性のくらしはどのような変化を遂げてきたのか。本展では、困難に耐え社会進出を果たした二人の女性、大妻コタカ・大橋鎮子の生涯をあわせてみながら、昭和を生き抜いた女性たちの姿を紹介します。



軍需工場で溶接作業を行う女子挺身隊員  
昭和19年(1944) 朝日新聞社提供

おおはしげこ 大橋 鎮子 (大正9年(1920)3月10日～平成25年(2013)3月23日)

東京府深川区(現・東京都江東区)に生まれる。

幼少期を北海道で過ごしたのち、東京・牛込、神奈川県・鎌倉で学校生活を送る。日本興業銀行(現・みずほ銀行)への就職を経て、日本女子大学に入学するも病気のため半年で退学。昭和16年(1941)に日本読書新聞社に入社する。戦後、女性のための新しい雑誌として「美しい暮らしの手帖」を花森安治らと創刊。女性の暮らしを豊かにする雑誌を作るため平成に至るまで編集者として活躍し続けた。



出版社「衣裳研究所」の設立を志す  
昭和20年(1945)  
暮らしの手帖社提供

おおつま 大妻 コタカ (明治17年(1884)6月21日～昭和45年(1970)1月3日)

広島県世羅郡三川村久恵(現・世羅町)の農家に生まれる。

18歳で東京し和洋裁縫女学校(現・和洋女子大学)や、神奈川県師範学校(現・横浜国立大学)女子講習科等を卒業後、小学校正教員免許を取得し、鎌倉尋常高等小学校(現・鎌倉市立第一小学校)の訓導を務める。大妻良馬と結婚したのち、明治41年(1908)裁縫と手芸の私塾を開設。大正5年(1916)に現在の大妻女子大学の原点となる各種学校「私立大妻技芸伝習所」が認可され、その後、女子教育ただ一筋に情熱を注いだ。



卒業生から贈られたルノーに乗るコタカ  
昭和27年(1952)～  
大妻学院提供

### イベント情報

#### 1 活動弁士による無声映画上映会

活動弁士 ハルキ

期日 8月6日(日)

1回目 13時～14時

演目 「子宝騒動」、「大学は出たけれど」

2回目 15時～16時

演目 「穂の行方」

場所 昭和館1階ニュースシアター

定員 各回60名

#### 2 夏休み工作体験(小学生対象)

戦中・戦後の子ども雑誌を参考に、紙飛行機・紙相撲など昭和の子どもの遊びを体験してみよう!

期日 7月29日(土)、8月19日(土)

時間 11時～15時まで

場所 昭和館3階会議室

#### 3 展示解説

担当者による展示解説を行います。

期日 7月29日(土)、8月19日(土)

時間 15時～(所要時間約45分)

場所 昭和館3階特別企画展会場

